

平成29年度 南区地区社協活動発表会

## 地区社協発 つながりと支え合いのまち、南区

～第3期南区地域福祉保健計画の推進に向けて～

■平成30年3月6日(火) 14:00～16:30

■参加者 計60名

■ウィリング横浜 12階研修室

## 基調講演 概要

(講師:静岡福祉大学 社会福祉学部健康福祉学科 西尾敦史教授)

## 【「個人化」、「無縁化」へと社会が変化】

- ・「8050問題」、「ダブルケア」、「ごみ屋敷」等、制度の狭間にある様々な問題が起きている。
- ・家族、地域、職場等、日本全体が「個人化」しつつあり、孤立する人が増えている。
- ・一方で、ペットに家族の替わりを求める人は増えている。
- ・日本は、世界の中でも社会的に孤立する人が多く、特に男性は近所づきあいが苦手。
- ・高齢者でも近所づきあいする人が減ってきており、大都市に住む人ほど交流が少ない。
- ・つながり(縁)が弱くなり、孤立するほど、福祉的な介入(支援)が難しくなる。

## 【地区社協への期待】

- ・「困りごと」(ニーズ)も「助けになるもの」(資源)も全て地域にある。
- ・それらを上手に紡ぎ出せる(コーディネート)のは、地区社協だけ。
- ・地区社協は、「話し合うことで、困っている人の声を聞き、まずは声をかける」ところから始めるとよい。



## 【「つながり」をつくる場や活動】

- ・サロンやカフェをつくったり、見守りや生活支援(ちょこっとボランティア)に取り組んだりして、縁をつくる動きが出てきている。
- ・「満足」と違い、「幸福」は人と人との結びつきの中で感じる事ができる。
- ・実は、助ける者が最も助けられる(ヘルパーセラピーの原則)。



## 太田地区の事例発表

太田地区社協からは、坂口事務局長、花村「おやじの会」会長からご報告いただきました。

☆南太田小学校「おやじの会」と地区社協が手を結び、協力し合っている。

☆広報紙「あったか通信」を活用して、地域活動に関わる住民を増やしている。

☆「地域の皆さんと楽しく活動し、その体験を共に喜びあう!」をモットーとしている。



## 南永田山王台地区の事例発表

南永田山王台地区からは、川井副会長、山本会計からご報告いただきました。

☆毎年「温かい街づくり研修会」を実施し、防災や障がい等、様々なテーマを設けている。

☆平成24年度から認知症サポーター養成講座と研修会を連動させたことで、認知症に対する地域住民の理解が進んだ。

☆住民が講師を務めることで、「温かい街づくり」について考える意識が高まってきた。



## パネルディスカッション

Q. 太田地区社協が「おやじの会」に関わったきっかけは？

A. 元々、自分が「おやじの会」のメンバーだったので、よく知っていた。

Q. 認知症の講座を展開する中で、地域の中で実際の支援につながったか。

A. 家族が認知症であることを周囲に伝えられるようになり、近所の人も温かく見守ることができるようになってきた。

Q. 地区社協と民生委員の違いは何か。

A. 民生委員は法律で「守秘義務」が課せられている。また、専門職へのつなぎ役でもある。地区社協のメンバーに民生委員・児童委員が入っている。



## アンケート結果

総回答数：36名



○地区社協活動発表会の感想

大変参考になった	8名
参考になった	27名
どちらともいえない	0名
参考にならなかった	0名
全く参考にならなかった	0名

<主な意見（一部）>

- ・西尾先生の「地区社会福祉協議会への期待」を実践していきたいと思います。
- ・地域共生社会登場の背景から現状、課題が分かりました。
- ・太田地区の赤ちゃん訪問員が広報紙を持って行くのは、いいアイデアだと思いました。
- ・太田地区の「おやじの会」は参考になったというより、うらやましさを感じました。
- ・認知症サポーター養成講座に向けてのヒントを沢山頂きました。
- ・「温かい街づくり研修会」認知症へもっと幅広く地域とのつながりを深めていった様子がすばらしいと思います。

